

CASBEE京都-新築(2015年版)
(仮称)JAグループ京都新ビル建設工事

■使用評価マニュアル CASBEE京都-新築(2015年版)
 ■評価ソフト: CASBEE京都-新築2015 (v.1.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 騒音				3.1	0.15	3.0	1.00	3.0
1.2 遮音				3.0	0.40	3.0	0.40	
1 開口部遮音性能				3.0	0.82	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能				3.0	0.18	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	0.20	
1.3 吸音			事務所:壁,床,天井のうち二面に吸音材を使用している	3.5	0.20	3.0	0.20	
2 温熱環境								
2.1 室温制御				2.6	0.35	2.6	1.00	2.6
1 室温				3.0	0.50	3.0	0.50	
2 外皮性能				3.0	0.38	3.0	0.57	
3 ゾーン別制御性				3.0	0.25	3.0	0.43	
2.2 湿度制御				3.0	0.38		-	
2.3 空調方式				1.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境								
3.1 屋光利用				2.9	0.25	4.1	1.00	3.1
1 屋光率	●自然	A(全国版準用)	共用部(事務室A-1:1.5)、(ラウンジ:1.6)、(客室(W-1:3.7))	3.2	0.30	4.2	0.30	
2 方位別開口				3.0	0.60	5.0	0.60	
3 屋光利用設備	●自然	B(推奨内容)	ラウンジ:屋光利用設備が1種類ある	3.5	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策				2.5	0.30	4.0	0.30	
1 屋光制御	●自然	B(推奨内容)	ブラインド又は、カーテンと庇を組合せてグレアを制御。	2.5	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御			客室:ベッド単位の細かな照明制御ができる。	3.0	0.25	5.0	0.25	
4 空気質環境								
4.1 発生源対策				3.5	0.25	3.8	1.00	3.5
1 化学汚染物質			F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。	4.0	0.50	4.0	0.63	
2 アスベスト対策				4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気				3.0	0.30	3.6	0.38	
1 換気量				3.0	0.42	3.0	0.33	
2 自然換気性能	●自然	A(全国版準用)	自然換気有効開口面積が客室床面積の1/10以上	3.0	0.16	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.42	3.0	0.33	
4.3 運用管理				3.0	0.20		-	
1 CO ₂ の監視				3.0	0.23		-	
2 喫煙の制御				3.0	0.77		-	
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ				3.1	0.40	3.2	1.00	3.1
1 広さ・収納性			各客室にGbrクラスのフロードバンドが利用可能な環境が整備されている	2.6	0.40	4.0	0.60	
2 高度情報通信設備対応				1.0	0.15	3.0	0.50	
3 バリアフリー計画	●大切	D(独自基準)		3.0	0.15	5.0	0.50	
1.2 心理性・快適性				3.0	0.70		-	
1 広さ感・景観	●とも	C(独自加点)	執務スペースの1%以上のリフレッシュスペース+自動販売機等の設置	2.5	0.30	2.0	0.40	
2 リフレッシュスペース				3.0	0.15	3.0	0.50	
3 内装計画	●自然	D(独自基準)		5.0	0.15		-	
1.3 維持管理				1.9	0.70	1.0	0.50	
1 維持管理に配慮した設計			維持管理に配慮した設計において、該当する項目数が標準以上である	4.5	0.30		-	
2 維持管理用機能の確保			維持管理用機能の確保において、該当する項目数が標準以上である	5.0	0.50		-	
3 衛生管理業務				4.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震				3.4	0.30		-	3.4
1 耐震性				3.0	0.50		-	
2 免震・制振性能				3.0	0.80		-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.20		-	
1 躯体材料の耐用年数	●大切	A(全国版準用)	30年以上	4.1	0.30		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			20年以上	3.0	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			20年以上	5.0	0.20		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			厨房排気ダクトにステンレスダクトを使用	5.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用。	4.0	0.10		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				5.0	0.20		-	
				3.0	0.20		-	

2.4 信頼性					3.6	0.20	-	-	
1	空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備				4.0	0.20	-	-	
3	電気設備				4.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備				4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					3.2	0.30	2.4	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり					3.4	0.14	1.8	0.50	
1	階高のゆとり				3.0	0.60	1.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)	事務所 壁長さ比率:0.2	4.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.14	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					3.2	0.73	-	-	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)	仕上げ材を痛めることなく通信配線の更新・修繕ができる。	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	3.2
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)	景観地区、風致地区にあり、認定または許可を得ている。	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮					3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●とも、 自然	A'(全国版準用)	地域性・アメニティへの配慮に関して比較的多くの取組みが行われている	4.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	3.7
1 建物外皮の熱負荷抑制					3.0	0.20	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用		●自然	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		●自然	C(独自加点)	BEI 非住宅 0.84 住宅(専有部) -	4.0	0.50	-	-	4.0
				LED照明の採用	4.0	1.00	-	-	
4 効率的運用					4.0	0.20	-	-	4.0
				集合住宅以外の評価	4.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング				主要な設備システムでシステム効率の評価を行うことで性能の評価が行える	5.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制					3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価					3.0	-	-	-	
4.1 モニタリング					3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制					-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	3.6
1 水資源保護					3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水				節水コマなどに加えて、省水型機器などを用いている。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	-	
1		●自然	A(全国版準用)	雨水利用システム導入の有無	3.0	0.70	-	-	
2				雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					3.7	0.60	-	-	3.7
2.1 材料使用量の削減		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)	リサイクル資材を3品目以上用いている。	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		●大切	A(全国版準用)	躯体と仕上げ材が容易に分別可能、再利用できるユニット部材を用いている。	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.6	0.20	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				化学物質排出把握管理促進法の対象物質を含有しない建材種別が1~3つ以下ある。	4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					3.5	0.70	-	-	
1				ODP=0.01未満かつ、GWPが低い発泡剤を用いた断熱材等を使用している	-	-	-	-	
2					4.0	0.50	-	-	
3					3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮				ライフサイクルCO2排出量=85%	3.5	0.33	-	-	3.5
2 地域環境への配慮					3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.7	0.25	-	-	
1				雨水排水負荷低減	3.0	0.25	-	-	
2				汚水処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-	
3				交通負荷抑制	5.0	0.25	-	-	
4				廃棄物処理負荷抑制	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮					3.3	0.33	-	-	3.3
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	
1				騒音	3.0	1.00	-	-	
2				振動	-	-	-	-	
3				悪臭	-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制					3.0	0.40	-	-	
1				風害の抑制	3.0	0.70	-	-	
2				砂塵の抑制	-	-	-	-	
3				日照阻害の抑制	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制					4.7	0.20	-	-	
1				屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	5.0	0.70	-	-	
2		●とも	B(推奨内容)	チェックリスト項目の過半、「広告物照明の扱い」の配慮事項の過半を満たす 建物外壁(ガラスを含む)の反射光(グレア)の発生を低減させる取組みを行っている	4.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う「とも」:ともに使う「自然」:自然からつくる